東日本大震災ボランティア派遣報告

南筑後支部柳川支所　河川砂防課　砂防港湾係
主任技師　岡崎陽好

私は、災害派遣ボランティア第２陣として４月初旬からの１週間、宮城県東松島市に入りました。派遣中、当時の職場に被災地の現状報告するために、就寝前に毎晩、職場の先輩あてにメールをしていました。今回、そのメールを紹介します。

〜〜

オカザキ通信 創刊！

平成 23 年 4 月 4 日　水資源対策課　主任技師　岡崎陽好

本日、無事に宮城県東松島市に到着し、無事に第一陣と引き継ぎを済ませ、明日（５日）より業務に入るようになります。

ちなみに、僕は大曲地区の避難所となっている大曲小学校で、河川課の崎山さん（同じヘアスタイル＆同じ体格＆同期入庁）と避難所のお手伝いをします！大曲地区は海沿いであり津波により壊滅的な状態で約 500 名の被災者がひとつの小学校に避難されています。

もちろん、電気、ガス、水道等のライフラインは全て不通の場所になります。

本日の夜から福岡県組は、隣町のコテージでシャワーと布団ありの生活を送ることになりました。私も避難所担当でありますが、今晩のみコテージで生活する事になります。

最後に、市役所まわりは津波の影響はありません。 日が暮れる前に、近くの自衛隊の東松島基地（ブルーインパルス基地）まで歩いて行った時の写真を送ります。

明日からは電気がないので、もしかしたら次は最終日になるかもです(^_^;)

（写真）東松島基地付近

～～～

オカザキ通信 第２報

平成 23 年 4 月 5 日　水資源対策課　主任技師　岡崎陽好

今朝は、コテージ付近は霜柱が立つ程の寒さで、気温は氷点下２度という想像を絶する寒さで朝を向かえました。

７時３０分にコテージを出て、８時に大曲小学校避難所の市役所担当者と会い、今週の職場＆生活の場である大曲小学校へ…

市役所担当者の方が「一度、被災現場を見た方が良い」と言われたので、僕たちは「是非、お願いします」っと、今考えたら軽い気持ちでお願いしましたが、実際に現場に行って、状況を見ると・・・・・・言葉が出ませんでした。

…「ここは、あまり見ない方が良いですよぉ」と担当の方が言われたポイントがあって、そこは、まだご遺体捜索が行われていない場所でした。

そんな衝撃を受けた後、衝撃を受けた二人は、目的地の避難所に無事到着。そこで、避難所本部の方と簡単に挨拶を交わし、早速お仕事を。

疫病防止の石灰と土砂片付け用の土嚢袋の配布と、避難者食事の分配、あと少しの事務仕事で、ボク達が行う業務の殆どがガテン系の仕事でした。

おばぁちゃんが、石灰を持って帰りたいって言うので、軽く「僕がいっしょに持って行きましょう」って言ったばかりに、２０ｋｇの石灰を２袋持って、１ｋｍ運ぶことになりました。

このような状況下でも、避難者のみなさんは、表面的には明るく元気に振る舞っていますが、やはり大きな悲しみや疲れが見え隠れする場面もあります。

最後に、この派遣が終わって、福岡に帰っても、たぶん痩せてないと思います。一日、三食キチンと頂き、その他に、今日は、四国からの讃岐うどんの炊き出しを頂きました。

次回は「名物オヤジとトラウマになるような話」でお送りします。

（写真）大曲小学校付近

（写真）大曲小学校校内

〜〜

<u>オカザキ通信 第３報</u>

平成 23 年 4 月 6 日　水資源対策課　主任技師　岡崎陽好

避難所生活 2 日目、こちらは 5 時には日が登り、日の出と同時に避難所のおじぃちゃん、おばぁちゃんが目を覚まし、活動を始めます。

僕たちは、避難所本部で寝ているのですが、泥だらけの教室の床の上にダンボールを敷き、その上に毛布を敷いて、寝袋で寝ます。

朝は、市役所担当者が 9 時にしか避難所に来ないので、朝食の準備はボク達だけで行います。今朝は、パンとカップヌードルでした。

ここで、名物オヤジの登場です。

かなり、地元の方から煙たがられていまして、以前、暴力団組織に所属されていた方で、何があったか分かりませんが、歯が全部ありません。そんな過去がありますが、世話好きで、明るく、礼儀正しい、短気でおしゃべり大好きなオヤジです。

初日から、目新しいボク達を気遣ってくれているのか、話し合い相手がいないのか、ボク達を見つける度に話をしてきますが、あまりにも流長な宮城弁と全歯が無いせいか、初日は、何を言っているのか全く分からなかったです。

しかし、今朝、目を覚ますと不思議と理解出来るようになって、昨日までは「怒っているのかなぁ？」と思っていたのですが、その方の話の約７割は下ネタで約２割がボク達への質問で、残りの１割が意味不明な擬音であることに気付きました。
その事を市役所担当者に言ったら、地元の担当者でも、そのオヤジの言葉がわからないと言っていました。たぶん、僕のリスニング能力が上がったのは、危機状態での順応機能でしょう。ちなみに、そのオヤジは昼前に自転車の後ろに、拾ってきたメトロノームを括り付け、歌いながら愛人のところに向かって行かれました。

あと、トラウマになりそうな話をいっぱい被災者の方から聞きまして、故意的に、こちらから聞き出したわけではなく、自然と被災者から話し出してきます。たぶん、聞いてもらいたいのでしょう。その内容はかなり重く、みなさん、かなりのストレスを溜めてらっしゃいます。

こちらの大曲小学校は、被災時は卒業式前で、体育館を覗いたら、卒業式準備そのままでした。
教頭先生から話しを聞くと、やはり、行方不明の生徒がいるらしく、本人確認は教頭先生がするそうで、安置所で子供を見付けると、最初は涙が止まらなかったそうです。しかし、今では見付けてもらって良かったねっとホッとするそうです。今も数名、行方が分からないとの事です。
そんな話をしている教頭先生の目には涙がいっぱい溜まっていました…

最後に、小学校でこんな落書きを見付けました。子供が、泥を指につけて書いた言葉です。正直、僕も涙が出ました。
次回は、「まさかの異動内示」をお送りします。

（写真）小学校体育館

（写真）小学校落書き

〜〜

オカザキ通信 第４報

平成 23 年 4 月 7 日　水資源対策課　主任技師　岡崎陽好

本日、異動内示が出ました。今日から支援物資の移動のお手伝いです！！

支援物資の移動のお手伝いと言っても、量が半端ないッ！！米と水を移動するのですが、２つ合わせて約８０トン(^_^;)

体育館などの公共施設が避難所になっていて、善意で集まった支援物資の保管場所に困っていたところ、近隣の会社などが好意で倉庫を無償で貸してくれ、物資等を仮置きさせてくれていたのですが、地震から 1 ケ月も起ち、倉庫を貸してくれていた会社が、そろそろ一般業務に戻りたいとの事で仮置きしていた物資を移動することになりました。

あっ、今の避難所は学校なので、10 日に閉鎖されるため、業務が縮小され、昨日で僕達の避難所仕事はお役御免になった訳です。素行が悪く、クビになった訳じゃなかですよ！

話は戻って、８０トンの荷物を福岡県職員の６名で移動するのは不可能であり、今回の業務は 2 日間で完了しなくてはならないため、筋肉モリモリの自衛隊が 20 名と自衛隊トラックが 3 台投入され業務が開始されました。

業務は予想以上に厳しく、午前中で体はボロボロなっておりました。しかし、その中でも、ひとつ楽しみを見付けました。それは自衛隊とのチカラ比べです。自衛隊が 10 キロの米を 2 つ抱えようもんなら、こっちは 3 つ抱え、それを見た自衛隊が 4 つ、そんな戦いを

繰り広げた結果、当たり前ですが、自衛隊が勝ちました(￣^￣)ゞ記録は 6 つで 60 キロです。

お陰で、市役所の担当者や、自衛隊と仲良くなり、スムーズに業務を遂行することができました。

しかし、今日の夕方に気付いたのですが、８０トンは、今日の移動する物資の量で、明日はまだまだいっぱいあるみたいです。(汗)

ほぼ手積みなので、身体中がパンパンでございます。(注：決して、肥えてパンパンになった訳じゃぁなかですよ！)

この震災派遣を学ぶ場として考えていた訳ではありませんが、色んな方から話を聞き、色んなことを学ぶことができました。

今回、１週間も席を空けることを承諾していただいた職場の皆様に感謝しております。

次回は、「安置所と拾得物管理」について、お送りします。かなり、辛い話です。

明日も、被災者のために、頑張っぺ（＾▽＾)」

（ちなみに、このメールは昨日の地震の直前（７日２２時５９分）に送信されたものです。また、地震直後にも「僕は大丈夫です」というメールが入っています。　水資源対策課）

（写真）支援物資

～～

オカザキ通信 第５報

平成 23 年 4 月 8 日　水資源対策課　主任技師　岡崎陽好

今回は内容を変更して、昨日起きました震度６強の余震について、お送りいたします。

昨日は、肉体労働のお陰で 10 時に皆布団に入り、ウトウトしながらオカザキ通信の作業をしておりました。そして、編集が終わり寝に入って少しすると…

“グラグラっ”と横揺れが Σ(￣。￣ノ)ノ

ボク達がこちらに来てから、震度２～３クラスの余震は何度もあったので、「またか」っと、油断していたのですが、「今回は揺れが長いなぁ」と思った瞬間…

“ドッカ～ンっ”と激しい横揺れが始まり、その後に、縦揺れがッ（大汗）本気で「ヤバイっ」と思いました。

なぜかと言うと、福岡西方沖地震の時でさえ、熊本県の阿蘇に遊びに行ってたので、大きい揺れを感じた事がなかったんですよ。

ボクは、あまりの揺れの大きさにビックリして、体を横向きにしたんですが、実はこれでボクの命が救われました。

体を横向きにした後、ステージにあるホワイトボードが僕の寝ていた場所に倒れていたのです。しかし、地鳴りが大きく、倒れた音にまったく気付かず、また倒れた事にも気付かず、揺れが収まり起き上がる時に気が付きました。

しばらくして、ホワイトボードを廊下に出したのですが、男４人がかりじゃないと動かせないくらいの重さで、直撃していたら怪我だけでは済みませんでした。その後、余りの怖さに震えが止まらず、色んな方にメールしまくり、自分が無事なコトを伝えました。「僕は無事です」と。メールを送ってしばらくすると、幼稚園からの友人から返信が、ありました「今、文化街で酔っぱらってま～す(*^◯^*)」っと… 完全にメールを送る相手を間違えてしまいました。(涙)

そんな中、面白い事がありまして、チーム最年少のＨ２２新採のＴ君が、揺れが激しくなってきた時、何を思ったか、消臭剤のリセッシュを握り、揺れが収まった瞬間、シュッ、シュッっとおもむろに、自分の作業服にかけ始めました。これが、ホントのパニック状態の人間の行動であります。パニック時は、何をすべきか分からなくなると言うことです。

ちなみに、僕は一番最初にタバコを探していました。

（写真）夜ご飯の風景

（写真）余震後の朝刊

～～～

<u>オカザキ通信 第６報</u>

平成 23 年 4 月 9 日　水資源対策課　主任技師　岡崎陽好

今回は、写真のみでお送りいたします。

（写真）おとといの余震で裂けた。

（写真）市役所受付業務（始業前）

（写真）支援物資保管場所移動中

（写真）拾得物整理（保育園）

（写真）整理が終わった拾得物

（写真）避難所(大曲小学校)

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

以上が、職場の先輩に送っていたメールです。

後日聞いた話ですが、このメールが即日編集され、他の課にも渡っていたそうですので、既に見られていた方もいらっしゃると思います。

メール本文中には、不適切な表現内容があるかもしれません。

この拙い文章から、皆さんに何が伝わるかは分かりませんが、私自身、災害などで命を落とすことのない、県土造りに更なる力を入れて行きたいと思っております。

最後に、この災害で命を落とされた方のお冥福を祈るとともに、被害を受けられた方々や地域の復興を願い、私からの報告を終わりたいと思います。